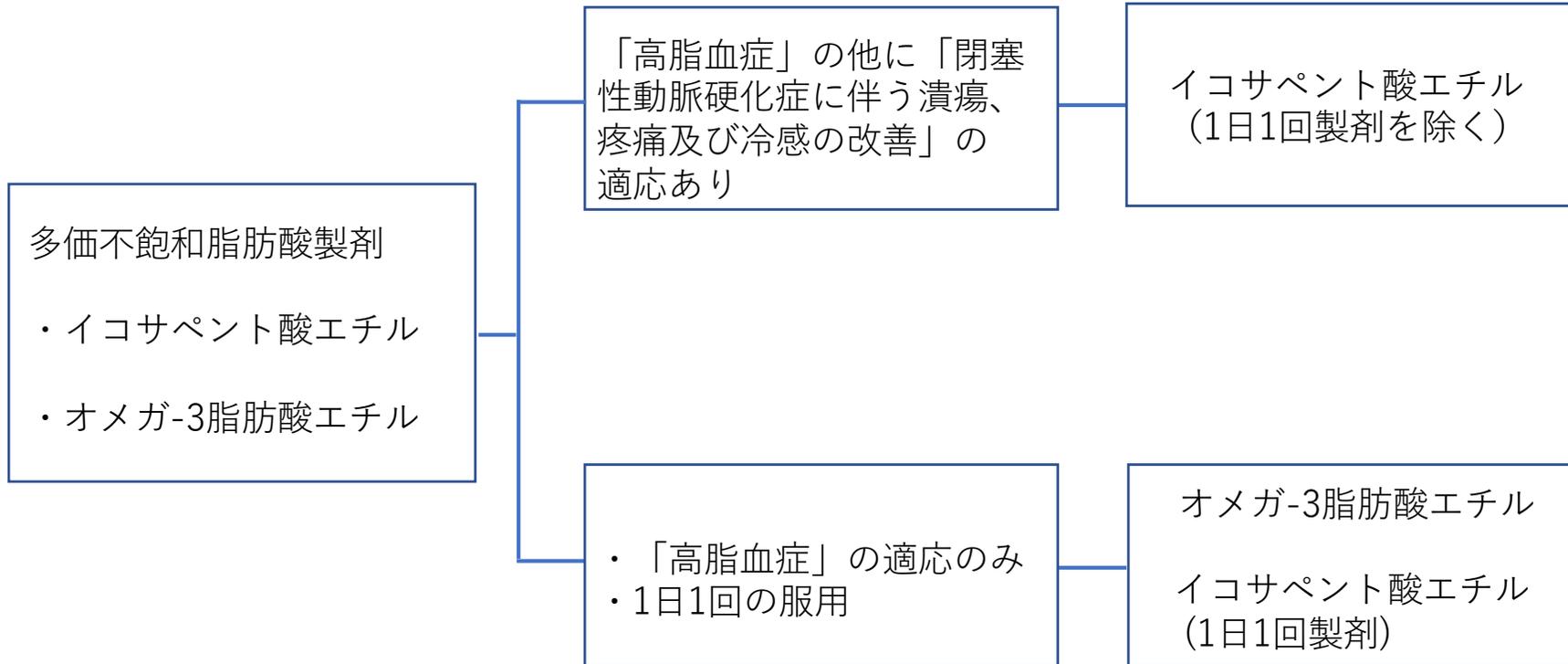


多価不飽和脂肪酸製剤のフロー図

2024年3月初版



動脈硬化性疾患予防ガイドライン2017年版（日本動脈硬化学会）で2剤の使い分けは明記されていない。

各製剤添付文書参照

天王寺区地域フォーミュラリ(多価不飽和脂肪酸)

2024年 3月初版

推奨	推奨薬		オプション	
一般名	イコサペント酸エチル		オメガ-3脂肪酸エチル 注)本品はイコサペント酸エチルとドコサヘキサエン酸エチルを主成分として構成される。	
代表的な製品名	GE：イコサペント酸エチル	先発：エパデールカプセル300 エパデールS300/600/900	GE：オメガ-3脂肪酸エチル 粒状カプセル2g	先発：ロトリガ粒状カプセル2g
標準1日薬価	64.6円 (1800mg/日)	111.2円 (1800mg/日)	89.5円 (2g/日)	202.4円 (2g/日)
効能・効果	高脂血症 閉塞性動脈硬化症に伴う潰瘍、疼痛および冷感の改善		高脂血症	
用法	1日2～3回 経口投与		1日1回 経口投与	
用量	1800mg/日 (TGの異常を呈する場合には程度により1回900mg×3回/日まで増量可)		2g/日 (TG高値の程度により1回2g×2回/日まで増量可)	
特徴等	イコサペント酸エチルは、JELIS試験による日本人のエビデンスがある。		外国で実施された疫学研究において、オメガ-3脂肪酸エチル4g/日の用量で、心房細動又は心房粗動リスクの増加を示唆する報告がある。	
その他	<p>・日本動脈硬化学会「動脈硬化性疾患予防ガイドライン2022年版」において2剤の使い分けは明記されておらず、オメガ-3脂肪酸エチル承認時の国内第Ⅲ相検証試験において12週間服用した際のTG変化率は両剤の標準的1日使用量（イコサペント酸エチル粒状カプセル1,800mg、オメガ-3脂肪酸エチル粒状カプセル2g）で同等の結果であったため、標準投与量での有効性に差はないと思われる。しかし、オメガ-3脂肪酸エチル粒状カプセル4gの使用量では、イコサペント酸エチル粒状カプセル1,800mgに優越性を示している。また、同試験での副作用発生率に大きな差はなかった。</p> <p>・イコサペント酸エチルは血小板膜リン脂質に取り込まれ、血小板凝集を抑制する。このため中リスク以上の手術を行う場合には休薬期間として7～10日が望ましいとされており周術期においては術前の休薬に注意が必要である。</p>			

その他の薬剤：イコサペント酸エチル(1日1回製剤)

2022年9月に発売されたイコサペント酸エチル(エパデールEM)は、消化管内において胆汁酸に依存せずに乳化分散し、吸収性の向上と食事の影響を受けにくくした製剤である。1日1回という特徴があるが、有効性については既存のイコサペント酸エチルカプセル剤と非劣勢が検証されている。現時点では処方数も少なく、先発医薬品しか無いことからフォーミュラリから除外した。

参考文献

- 1: Effects of eicosapentaenoic acid on major coronary events in hypercholesterolaemic patients : a randomised open-label, blinded endpoint analysis (JELIS) .Yokoyama M, et al. Lancet 2007 ; 369:1090-1098
- 2: 動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2022 年版 (日本動脈硬化学会)
- 3: 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 ロトリガ粒状カプセル 2g 審査報告書
- 4: 抗血栓療法中の区域麻酔・神経ブロックガイドライン 2016 年 9 月版 (日本ペインクリニック学会・日本麻酔科学会・日本区域麻酔学会 合同抗血栓療法中の区域麻酔・神経ブロックガイドライン作成ワーキンググループ)

天王寺区地域フォーミュラリ

多価不飽和脂肪酸 推奨メーカー

2024年3月初版

イコサペント酸エチル粒状カプセル

日本ジェネリック株式会社

沢井製薬株式会社